

カルメル霊性センター (月刊)

2003 (平成15年) 12月号

2003. 12

霊性センターニュース

183号



「深い淵の中のクリスマス」

カルメル会 中川 博道

クリスマスを毎年祝うたびに、とても不思議に思っていたことがあります。それは「教会の祈り」が、クリスマスの晩から八日間、「死者の祈り」として親しまれている詩編 130 編『デ・プロフンディス（深い淵のそこから）』を唱えることでした。「主の降誕の喜び」と、「どん底からの叫び」にどのような繋がりを見出せるのか戸惑いもありました。

深い淵の底から、主よ、あなたに叫びます。

主よ、この声を聞き取ってください。

嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください・・・

わたしの魂は主を待ち望みます。(詩編 130.1~2,6)

「深い淵」は「底なしの深み」であり、それは「苦しみ」「不安」「苦悩」の象徴です。足がかりもない深い泥沼に落ち込んで、もがけばもがくほどずるずるとはまってしまうような状況をあらわしています。詩人はそのような中であって叫んでいます。そして、主を待ち望むのです。「待ち望む」の語源には「絡みつく、巻きつく」という意味が隠れているといわれています。この詩人は深みと隔たりの中にはまりながらも、真剣に主に絡みつくのです。その根拠は、

しかし、赦しはあなたのもとにあり・・・

イスラエルよ、主を待ち望め。

慈しみは主のもとに 豊かな贖いも主のもとに。(詩編 130. 4,7)

主と共に「赦し、慈しみ、豊かな贖い」のあることの確信です。赦し・慈しみ・贖いである主が泥沼におちいつている者と共に居られないはずはないから、その主に絡みつくのです。

わたしたちが落ち込んでいる底なしの深みに、すでに主が共におられるということ。クリスマスは、無限のかなたに向かって声を振り絞って叫ぶことではなく、キリストが深い深い死の底に、わたしの泥沼の中にすでにごりくださることに気づいていくことなのです。ありえないと思っていた場の中に、キリストがすでに生きていてくださる事実を受け入れていくことでもあるのです。

2003年 カルメル会 東京・上野毛聖テレジア修道院(黙想)

2003年12月～2004年3月

*** 奉獻生活者のための黙想会**

12月26日(金) 16時～翌年1月4日(日) 朝食 チブリアーノ師

*** 聖書深読黙想会**

次の各土曜日の夕食から日曜日の16時30分まで

2004年

2月21日(土)～22日(日) 星野正道師

3月6日(土)～7日(日) 奥村一郎師

*** 特別黙想会**

最初の日の夕食をすませてからの集合。どなたでも参加できます

12月5日(金) 20時～7日(日) 15時 Sr.伊従信子

*** 大祭日のミサにあずかるために**

チェックイン午後3時から。(講話なし) チェックアウト午前10時まで

クリスマス 12月24日(水)～25(木) 朝食

復活祭 2004年4月11日(土)～12(日) 朝食

(お問合せ、お申込み) カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL.03-5706-7355(黙想) FAX. 03-3704-1764

2003年 カルメル会 京都・宇治聖テレジア修道院(黙想)

*** [青年のための黙想会] (女性のため)**

12月7日(日) 午前10時～午後5時 カルメル宣教会

*** [聖書深読黙想会] (土曜日午後5時集合 日曜日午後4時解散)**


12月13日(土)～14日(日) 大瀬高司神父

(お申込) 宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

Tel. 0774-32-7016 FAX. 0774-32-7457

はがき又は、FAXにて「氏名、住所、電話番号、所属修道会名、教会名」を書いてお申し込み下さい。

カルメル修道会  聖テレジア修道院 (黙想)

2004年4月～2005年3月までの黙想会予定表

1. 聖書深読 (毎回土曜日 夕食 ～日曜日 16時)
4月3日、4日・・・九里彰師
5月8日、9日・・・奥村一郎師
6月26日、27日・・・九里彰師
9月4日、5日・・・九里彰師
11月27日、28日・・・九里彰師
'05/3月19日、20日・・・奥村一郎師
2. 奉献者のための黙想会
① 7月27日(火) 16時 ～8月5日(火) 朝・・・渡辺幹夫師
② 8月11日(水) 16時 ～8月20日(金) 朝・・・未定
③ 12月27日(月) 16時 ～1月5日(水) 朝・・・九里彰師
3. カルメルの聖人を見つめ靈性を深める
(毎回水曜日 10時～16時)・・・九里彰師
A・・・大聖テレジア B・・・十字架の聖ヨハネ
(1) 4月21日 (1) 5月26日
(2) 6月2日 (2) 7月7日
(3) 9月29日 (3) 11月24日
(4) 12月1日 (4) 1月19日
(5) 2月16日 (5) 3月2日
4. 青年男女黙想会 スタッフ・・・カルメル会士
(1) 5月22日(土) 16時～23日(日) 16時
(2) 11月6日(水) 16時～7日(木) 16時
5. 召命黙想会(男女) スタッフ・・・カルメル会士
10月1日(金) 16時～3日(日) 16時
6. 大祭日のミサにあずかるために
チェックイン午後3時から。(講話なし) チェックアウト午前10時まで
(1) クリスマス 12月24日(日)～25日(月) 朝食
(2) 復活祭 '05/3月26日(土)～27日(日) 朝食

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-5706-7355 (am9時～pm5時) FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

2004年 黙想会案内 (宇治カルメル)

[聖書深読黙想会] (土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

1月24日～25日 新井延和師 2月28日～29日 福田正範師 4月24日～25日 中川博道師 5月29日～30日 福田正範師 6月26日～27日 奥村一郎師	7月24日～25日 福田正範師 9月4日～5日 新井延和師 10月30日～31日 中川博道師 11月20日～21日 九里 彰師 12月11日～12日 奥村一郎師
---	--

[青年のための黙想]

*青年男女のため 4月18日(日) 午前10時～午後5時 カルメル会士・カルメル宣教会
 10月17日(日) //

*聖テレーズの黙想 9月30日(木) 午後5時～10月1日(金) 午後4時 伊従信子氏

[一般のための黙想]

*水曜日の黙想会 (午前10時～午後4時)

1月21日 受肉の秘儀 新井延和師 2月11日 イエスの祈り アロイジオ師 3月17日 聖ヨセフ 福田正範師 4月14日 復活 新井延和師 5月19日 マリア様と共に奥村一郎師 6月16日 聖霊 長岡幸一師	7月21日 カルメルの祈り 新井延和師 9月15日 十字架の神秘 福田正範師 10月13日 アビラの聖テレジア Sr.ベアトリス 11月17日 諸聖人の通功 長岡幸一師 12月15日 十字架の聖ヨハネ奥村一郎師
--	--

*四旬節の黙想 3月6日(土) 午後5時～7日(日) 午後4時 福田正範師

*待降節の黙想 12月4日(土) 午後5時～5日(日) 午後4時 中川博道師

[奉献生活者の黙想] (午後5時/午前9時解散)

7月11日(日)～7月20日(火)	新井延和師
8月2日(月)～8月11日(水)	中川博道師
8月16日(月)～8月25日(水)	福田正範師
10月18日(月)～10月27日(水)	福田正範師

その他皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

申し込み方法: 宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

TEL0774-32-7016 FAX0774-32-7457

電話でも受け付けておりますが、できるだけ、FAXあるいはハガキでお名前、と連絡先をご記入の上お申し込み下さい。なお電話でお申し込みの場合受付が休みになっている時は、すぐにお返事出来ないこともあります。その際は、恐れ入りますが、改めてお問合せ下さいようお願い申し上げます。

「立ちどまって、ひといになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一日静修～（2004）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ 28:20）といわれました。共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみたいかでしょうか。若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについてイエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第1回	1月12日（月）	「聖ルカに聞く（1）」	松田浩一 神父
第2回	2月11日（水）	「カルメル諸聖人の道」	大瀬高司 神父
第3回	3月23日（火）	「聖ルカに聞く（2）」	松田浩一 神父
第4回	4月29日（木）	「わたしたちの召命」	中川博道 神父
第5回	5月25日（火）	「聖ルカに聞く（3）」	松田浩一 神父
第6回	6月29日（火）	「恵みの梅雨」	松田浩一 神父
第7回	7月19日（月）	「神の国への道標」	松田浩一 神父
第8回	9月28日（火）	「聖ルカに聞く（4）」	松田浩一 神父
第9回	10月11日（月）	「神の家族」	中川博道 神父
第10回	11月23日（火）	「わたしたちの使命」	九里 彰 神父

*時間 いずれも AM10:00～PM4:00

*場所 カトリック日比野教会（地下鉄・名城線、日比野駅下車徒歩5分）
（駐車場は利用できません。）

*費用 1,000円

*持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、昼食の弁当

*定員 約15名

プログラム	10:00～	祈り
	10:45～	講話【1】
	12:00～12:45	昼食
	12:45～	ゆるしの秘跡または短い面接
	13:30～	講話【2】
	14:45～	ミサ
	15:30～	茶話会

・また、空いている時間にゆるしの秘跡または短い面接を受けることができます。

申込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前まで必着のこと。尚、日比野教会の葬式などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院 一日静修係（担当 松田浩一 神父）

FAX 052 [671] 1825、（お問合せ）TEL 052 [671] 1003

聖書深読センターが発足しました!

所長 : 奥村一郎 神父
事務局長 : 新井延和 神父
連絡先 : シスター ベアトリス
〒611-0002
京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
tel:0774-32-7016
fax:0774-38-2543
e-mail:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

● 聖書深読黙想会

● 東京——カルメル会東京上野毛聖テレジア修道院(黙想)

4月12日(土)~13日(日)	奥村一郎神父	了 了 了
6月28日(土)~29日(日)	九里 彰神父	
9月27日(土)~28日(日)	星野正道神父	
11月29日(土)~30日(日)	九里 彰神父	

(土曜日の夕食から日曜日の16時30分まで)

連絡先 : 〒158-0093
東京都世田谷区上野毛2-14-25
tel:03-5706-7355
fax:03-3704-1764

● 宇治——宇治カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

4月26日(土)~27日(日)	奥村一郎神父	了 了 了 了 了 了
5月17日(土)~18日(日)	新井延和神父	
7月19日(土)~20日(日)	星野正道神父	
9月20日(土)~21日(日)	九里 彰神父	
10月18日(土)~19日(日)	中川博道神父	
11月22日(土)~23日(日)	新井延和神父	
12月13日(土)~14日(日)	大瀬高司神父	

(土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

連絡先 : 〒611-0002
京都府宇治市木幡御蔵山39-12
tel:0774-32-7016 / fax:0774-38-2543

・京都・河原町——河原町カトリック会館 6階

4月12日(土)	新井延和神父	}	了
5月10日(土)	奥村一郎神父		
6月14日(土)	北村善朗神父		
7月12日(土)	新井延和神父	}	了
9月13日(土)	奥村 豊神父		
10月11日(土)	奥村一郎神父		了
11月8日(土)	中川博道神父		
12月13日(土)	新井延和神父		

時間 : 午前10時～午後4時

費用 : 2500円(昼食代を含む)

持参品 : 聖書、筆記具、ノート

連絡先 : 〒604-8006

京都市中京区河原町三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

tel:075-211-3484 / fax:075-211-3910

各回、お申し込みは3日前までに

・名古屋

- * 毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
- * 原則として、定員は21名とし、申し込みはファックスまたは葉書でお願いします。
- * コースは、深読法を集中的に行なう1日コースと、全行程を行なう一泊二日コースがあります。
- * 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

連絡先 : 〒465-0058

愛知県名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚

tel/fax:052-701-3685

●通信深読について

通信深読は現在何箇所かで行なわれているようです。そのうちの2箇所が、新たに参加可能なので紹介します。

1. 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は「個人素読」(記号, 全、所感, 近況報告などを書く B5 の用紙)を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」, そして解説が冊子になって送られる。

費用: 6ヶ月 17,900円(4月, 7月, 10月, 1月に入れる)
継続 15,950円

講師: 奥村一郎(奇数月) 新井延和(偶数月)

問い合わせ: (163-0278) 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル
私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部
電話03-3344-2527(直通)

2. 有光さんのグループ

参加者は「素読表」(B5あるいはその半分に記号, 全、および思いを書く。書式は自由)を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用: 1回300円 年10回3千円

住所: (663-8033) 西宮市高木東町16-18-504 有光信子

電話・fax: 0798-67-8132

振込先: 01170-4-59360 聖書深読センター大阪

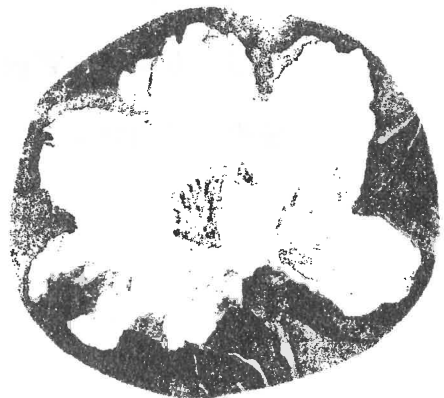
●ミニ深読

グループで、2,3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光または Sr.ベアトリスが指導に行くことも可能です。

問い合わせは、「聖書深読センター」事務局 Sr.ベアトリスまでお願いします。



祈り

カルメルの靈性に基づいて

聖テレジアの祈りの体験

月	日	テーマ	
9月	15日(月)	テレジアの祈りー子供として	了
10月	20日(月)	テレジアの祈りー大人として	了
11月	3日(月)	祈りの段階	
	17日(月)	祈りの目標	
12月	8日(月)	テレジアの祈りの特徴	

時間ー2:00~4:00

2:00~2:30ーインプット

2:30~3:30ー念禱

3:30~4:00ー分かち合い

どなたでも参加できます。

費用:無料

担当:カルメル宣教修道女会 シスターベアトリス

場所:宇治カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

カルメル会

特別黙想会

2003年12月5日(金)20時～7日(日)15時

指導：Sr.伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

テーマ：待降節にあたってテレーズと共に祈る

テレーズ・幼子の道

*黙想会費：¥11000

*夕食を済ませてからの集合です。どなたでも参加できます。

*お問合せ・お申し込み：

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

上野毛・聖テレジア修道院（黙想）

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1764





… 主の御手のもとに生きる …

エディット・シュタインのメッセージ

—DECEMBER—

日が短くなってくると、降誕祭のことが頭に浮かび始めます。何週間も、何ヶ月も前から、愛の温かい奔流のようなものが、この地上をほとばしっています。愛と喜びの祝祭——その星に向かって、すべての人が懸命に歩んでいるのです。

私たちは、皆ひとつであるということ、それは人類の驚嘆すべき事実です。

神が私たちのうちにおられ、神が愛であるとするなら、私たちは兄弟姉妹たちを愛する以外のことはあり得ません。それゆえ、人類に対する私たちの愛は、神に対する私たちの愛の目安なのです。

キリスト者にとって、知らない人などというものはありません。いついかなる時にも、私たちの前に立つ人、私たちを最も必要とする人は、私たちの隣人なのです。その人が血縁関係にあるかどうか、私たちがその人を好きであるかどうか、その人が「道徳的にふさわしい」人であるかどうかということは、関係ありません。

血縁による隣人は、同時に霊においても隣人であるなら、互いの交わりは易しくなるでしょう。それは、天国の至福の前味のようなものです。

もしあなたがキリストの愛によって愛したいのなら、あなたはあなた自身のためではなく、神のために、人々を勝ち得ることでしょう。けれども、それは同時に、彼らを永遠に私たちのものにする最も確かな方法でもあるのです。

次のことは、あなた自身の靈魂と同様、他の人々の靈魂にも、すべての物質的なものにも当てはまります。もし、あなたの目的がそれらを勝ち得て所有することであるなら、あなたはそれらを失うことでしょう。

私たちは皆、空の鳥と野の百合のたとえ話を知っています。けれども、私たちは、自分の将来について心配せずに生きている人に会うと、頭を横に振るのです。

毎日接する人からの裁きを避けることは出来ません。同じことは、私たちの日々の主とのかかわりについても当てはまります。人は主にとって何が好ましいことで、何が好ましくないことなのかについて、より一層敏感になるものです。

教会が十字架の聖ヨハネを教会博士の位に上げて以来、今日では、内的生活の神秘的な領域を探求したいと望む人は皆、彼の方へと導かれます。

神だけが人間の委託をお受けになることができます。神は、人が自分の魂を失うのでなく、かえってそれを得るように、人間の委託を受け止められます。そして、神のみが人にご自分自身を与え、その全存在を満たすことができになります。けれども、神はそのためにご自分のものを失うことはありません。

私たちは、静かに聴き入り、神のみ言葉が私たちのうちに働かれるようにするための時間を必要としています。

夜になって、クリスマスツリーに火がともされ、贈り物が交換されるとき、満たされない憧れが、さらに外側へと、異なった輝きに向かいます——聖夜の奇跡がもう一度新たにされるまで。「そして、みことばは人となった……。」

馬小屋の前に、一年に一度ひざまずくだけでは、人間の生命全体を神の生命で満たすには足りません。このためには、私たちは、生涯中毎日、神に触れていなければなりません。

飼葉おけの前に立つとき、人は世界中に散らばるすべての人々と、また世界を超える人々とさえも結ばれています。これは、慰めに満ちた神秘です。

私たちは、一日一日を、そして一時間一時間を、永遠の一部とすることについてももっともっと学べるように、祈りによって互いに助け合うことができるでしょう。

* * * * *

この記事は、ケルン・カルメル会のSr. マリヤ・アマータ・ナイヤーが編集し、聖女エディット・シュタインの姪に当たるスザンヌ・パッツドルフさん（米国カリフォルニア州在住）が英訳された An Edith Stein Daybook: To Live at the Hand of the Lord (Templegate Publishers, Springfield, Illinois, U.S.A.) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

エディット・シュタイン（十字架の聖テレジア・ベネディクタ）略歴

1891年10月12日にプレスラウにユダヤ人として生まれ、1922年1月1日にベルクツアーベルンのカトリック教会で洗礼を受けた。フッサールの門下生として、哲学、女子教育の分野で活躍した後、1933年10月14日にケルンの跣足カルメル会に入会、十字架のテレジア・ベネディクタの名を受ける。1938年末、ナチの迫害を逃れてオランダのエヒト・カルメル会修道院に移るが、1942年8月2日、ナチに逮捕され、同年8月9日アウシュビッツにて殉教の死を遂げる。1987年5月1日教皇ヨハネ・パウロ二世により列福、1998年10月11日、同教皇により列聖。1999年10月1日、シエナの聖カタリナ、スウェーデンの聖ビルジッタと共に、ヨーロッパの保護者と宣言される。

断想 (186)

日本語の味

生まれてから、今まで、かなり、しゃべったり、書いたりしてきた日本語だけに、折々、自分なりに味わいながら悦(えつ)に入っていることがある。それが、他者との共感が誘われるときは、いっそう、うれしい。それは、詩であり、和歌、俳句であり、また、広く、深い哲学や神学の場合には、体全体にしみとおる。「魂の共感」というのであろう。そこでは、文字だけでなく、声となり、絵となる。

一例として、八木重吉の詩をとりあげてみよう。「キリスト」ということばが、三種類の文字で書かれている。

基督

- (1) 波がひとつの川をながれてゆくように
一念に基督を 呼んでゆこう
- (2) 私は
 床の間に基督の磔の図をかけておく
 その前ではとうてい人を憎みとおせない
- (3) 真理によって基督を解くのではない
基督によって
 真理の何であるかを知るだ

きりすと

- (1) きりすと
 われにありとおもうはやすいが
 われみずから
きりすとにありと
 ほのかにてもかんずるまでのとおかりしみちよ
 きりすとが わたしをだいてくれる
 わたしのあしもとに わたしが ある

キリスト

(1) 在天の神よ

この弱き身と魂をすくいて

神とキリストの光のために働かせて下さい

(2) ときと

ところと

すべてはキリストへむかって

おがんでいる

(3) わたしは

キリストをしんずる

しかしながら

わたし自らが

乞食のようになって

それでうれしい日がくるまでは

たからかにさげべない



註：

基督

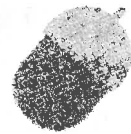
不動の岩

きりすと

温かい手

キリスト

明るい



ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(61)

肉となる言葉

言葉は重要です。言葉なしでは、私たちの行動は、意味を失います。そして意味なしには、私たちは生きることはできないのです。言葉は、展望や洞察、理解やヴィジョンを与えてくれます。言葉は、安らぎや慰め、励ましや希望をもたらしてくれます。言葉は、恐れや孤独、恥や罪を取り除いてくれます。言葉は、和解や一致、赦しや癒しを生み出してくれます。言葉は、平和や喜び、内的自由や深い感謝をもたらしてくれます。要するに言葉は、その羽に愛を運ぶことができるのです。愛の一言は、もっとも偉大な愛の行為の一つでありうるのです。というのも、言葉が私たち自身の生活や他者の生活の中に受肉する時、私たちは、世界を変えることができるからです。

イエスは、肉となった言葉です。彼の中では、話すことと行動することは一つになっていたからです。

(0622)

心から出る言葉

私たちの内で肉とならない言葉は、「単なる言葉」にとどまります。それは、私たちの生活に何の影響力も持っていません。誰かが、「僕は君を愛している」と心にもないことを言うなら、その言葉は、善よりはむしろ害をもたらすことでしょう。けれども、同じ言葉が心から発せられるならば、それは、新しい命を生み出すことができるのです。

私たちが言葉の源と接触し続けることは、重要なことです。私たちにとって大きな誘惑は、「八方美人」、すなわち、他人に気に入るよううまい言葉ばかりを言う人間となることです。けれども、その言葉はその人の内的生活に何の根も持ってはいないのです。私たちは、私たちの言葉が本当に自分の心に根ざしたものであるかどうか確かめ続けなければなりません。そのための最善の方法は、沈黙のうちで祈りの中にとどまることです。

(0623)

九里 彰訳

待降節第2主日

「神の言葉がザカリアの子ヨハネに下った」(ルカ3:2)

旧約聖書に神の霊が降ったという表現が何度も出てきます。サムソン(士師記14:6)、サウル(サムエル記10:6)、ダビデ(サムエル記16:13)などです。神の霊が降ると別人のようになります。ヨハネは聖母マリアがエリザベトを訪ねた時、母の胎内で喜び踊りました。このときに聖霊を受けていたので、もう一度聖霊を受ける必要がなかったのでしょう。荒野で彼は神の言葉を受けました。それは天の国、神の怒りの日が近づいているので、主の道を整えるようにとの招きでした。そのために彼は人々に悔い改めの洗礼を授けました。

神の怒りとは裁きのことであり、それは御子を通して世を救うためであり、「御子を信じない者はすでに裁かれています。神の独り子を信じなかったからである(ヨハネ3:18)」という裁きです。しかしイエス・キリストが再び来られる時には最後の審判が行なわれます。今日の第2朗読でパウロは、キリストの日に備えて清い者、とがめられるところのない者となれと言っています(フィリピ1:10)が、洗礼者ヨハネは本当にこういう人でした。聖霊が彼を満たしていたからであり、また神の言葉によって清められていたからでしょう。

ヨハネの心の清さは彼の謙遜によく現れています。彼は自分が何者であるかと尋ねられたとき、メシアであるとか、エリヤであるとか言えば簡単に信用されたにもかかわらず、「荒野に叫ぶ者の声である」と答えています(ヨハネ1:23)。彼はまさに声の役目を果たしました。声は言葉を運ぶもので、言葉が伝われば消えていく運命です。彼の生涯はキリストの道を整えることにあり、それが終われば消えていくことを喜んでいたので。イエスが彼よりもたくさんの人を惹きつけていることを知ったとき、ヨハネは「彼は栄え、わたしは衰えなければならぬ」と言い、しかも「私の心は喜びに満たされている」と語ったのでした(ヨハネ3:29, 30)。

このヨハネも獄中に閉じ込められている間、来るべきメシアが誰であるかわからなくなった時があり、弟子をイエスのもとに送り、「来られるはずの方はあなたですか、それとも他の方を待つべきですか」と問わせています。主が「女から生まれたものの中で、ヨハネより偉大な者はいない」と誉めたヨハネでも、迷うことがあったのです。このことは私たちに大きな教訓を語っています。私たちにも主から降った言葉があると思います。不思議な語りかけはなかったとでしょう。しかし、洗礼の時、また御聖体を拝領するとき、主はいつも「私はあなたを愛している」、「私はあなたのために身を捧げた」、「私はあなたのために果たしてもらいたい使命を用意している」などと語りかけておられるのです。これらの言葉は真実です。主はだれにでもこういう言葉を話されています。しかし、いつもいつも確実にこの内容が明らかというわけではありません。ヨハネのように暗闇に閉ざされ、わけがわからなくなることもあります。こういう時しっかりと信仰に立ち、信じ続けることが必要です。神の言葉が確かであると信じつづけようとするとき、ますます信仰が磨かれます。信じるということは素晴らしいことです。

(新井)

待降節第3主日

「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。」(フィリピ4:4)

この第3主日は、喜びの源があり、望みを持つべきであると私たちに思い出させてくれます。実にしばしばキリスト者は、よい知らせを告げ知らせる者としてよりも陰鬱と失望の預言者として現れます。私たちは皆、私たちをとりまく悪を知っています。毎日の新聞は戦争と暴力で満ちています。しかし私たちはキリストがやって来たので愛という答えを持っていると信じています。この愛がわたしたちの人生の意味です。愛だけが有効です。愛だけをイエスは私たちに求めておられます。

今日の第2朗読が喜ぶように招いているのは、イエスの夢を共有し、イエスの愛を具体的に実践するということです。私たちは互いに愛し合うように、そしてお互いのために命を捨てるように招かれています。自分の命を毎日少しずつ他人に与える人だけが本当に喜びを経験します。どこから始めるべきか、心の中で、家族の中で、仕事においてなど、私たちは知っています。自分自身から出、さらに一步を進めるとき、私たちはイエスがもう一度生まれとくださるようにし、この世で彼の愛と喜びを解き放つこととなります。

聖パウロは「どんなことでも思い煩うのはめなさい」と言います。神の現存の恵みは、慰めと同時に保証です。神がいつも共にいて下さることを忘れないようにしましょう。これがイエス・キリストにおける神の愛に満ちた賜なのです。主は近くにおられ、私たちの悲しみと喜びのリズムの中に、またいまだ知られていない静寂の中におられます。困難と試練は一人一人の中にあるはずですが、このことについては主御自身があらかじめ警告しています。「私の後に従うものは、自分の十字架をとり、私に従いなさい」と。わたしたちの出会い十字架は天への前進の障害でなく、むしろ旅路の必要な補助なのです。十字架を親しみを持って受け取るなら、私たちのためにカルワリオまで十字架を担われたわたしたちの導き手の近くにいられるでしょう。私たちのためにあれほどのことをされ、あれほどの苦しみを受けられた神のために小さなことを耐え忍ぶのを拒否するなら、わたしたちは卑怯者になってしまいます。

クリスマスに近づくとつれ、私たちは愛する人々にだんだん近づくことになるでしょう。私たちは彼らにイエスの喜びを持っていきます。真の喜びはキリストに自分自身をかけるかどうかゆっくりと考えて決めることです。世における真のキリスト者は、練り粉を健全で健康なパンに変えるパン種です。この力を与えるパン種にわたしはなれるし、なるべきです。もしそうなるための努力をしないで将来もしないなら、箕(み)であるキリストが私を裁きの日に粉殻として吹き飛ばし、消えることのない火に入れるでしょう。今日の福音の中に、洗礼者ヨハネの説教に応じ、何をすべきかと尋ねた人が出ています。人生において意味を探るとき、わたしたちもこの質問をすべきです。すべては聖霊と火で私たちに洗礼を授ける、来るべきイエスを信じているかどうかにかかっています。わたしたちの人生には麦も粉殻もあります。疑い、問題、不安を持って、主イエスのほうに向かうべきです。聖霊に浸されて新しい生命に入るでしょう！クリスマスは新しい出発になることができます。(Beatrice)

待降節第4主日

「胎内の子が喜んで踊りました」

(ルカ1:44)

聖母マリアは、大天使ガブリエルのお告げを受けてからすぐにアイン・カレムに向かいました。そこには親戚のエリザベトが住んでいます。処女でありながら救い主を懐胎するという知らせにとまどうマリアに、天使はエリザベトがうまずめと言われていたのに年をとって男の子をみごもったと言って、神の全能を示しました。

聖母がエリザベトに会いに行ったのは、天使の語ったことを確認したかったからだけではないと思います。喜びを分かち合いたかったからに違いありません。ルカの15章にあわれみの三つのたとえ話があります。見失った羊を見つけた人、なくした銀貨を見つけた人が「一緒に喜んでください」と言います。放蕩息子のたとえでは兄が父親から、帰ってきた弟のための祝宴に招かれます。喜ぶ人はともに喜んでほしいものなのです。羊や銀貨を見つけたことや、死んだと思っていた息子が帰ってきたことに共感することはたやすいことです。しかし神から特別のお告げを受け、聖霊に満たされて始めて経験できる喜びに共感できる人は限られています。聖母は神から特別の恵みを受けた仲間と喜びを分かち合いたいから、山地に向かって旅を急いだのです。

マリアがザカリアの家に入り、挨拶すると、エリザベトの胎内の子が踊り、彼女は「あなたは女のうちに祝福された方、あなたの胎内の子も祝福されています。わが主の御母が私にところにおいでになるとは、いったいどうしたことでしょう。」と声高らかに叫びました。マリアも喜びのあまり「私の魂は主をあがめ、私の霊は救い主である神をたたえ、踊ります」と賛歌をうたいました。そこには神の恵みを受けた人同士の心の響きあいと喜びの爆発があります。そしてその喜びにはまだ胎児であった洗礼者ヨハネも加わっています。

洗礼者ヨハネは後に、イエスが自分よりもたくさんの人を集めていると弟子たちから聞かされたとき、「花嫁をもらうのは花婿である。花婿の友はそばに立ち、耳を傾け、花婿の声を聞いて大いに喜ぶ。それで私の心は喜びに満たされている。彼は栄え、私は衰えなければならない」というすばらしい言葉を語ります(ヨハネ3:27~30)。ここには嫉妬の影さえ見られません。ヨハネの母と聖母の出会いのときも同じでした。どちらのほうかより大きい恵みを受けたとか、私はあの人ほど可愛がられていないとかの考えは少しも出てきません。純粹な、聖霊による喜びがあるだけです。神の偉大な業を喜ぶ気持ちがあるだけです。

聖母マリアは、このように人に喜びを運びます。私たちも実はエリザベトと同じように神からの大きな恵みを受け、聖霊に満たされているのです。アッパ父よと叫ぶ御子の霊が与えられているからです。エリザベトのように大きな喜びの叫びをあげてよいのです。

(新井)

主の降誕

「皇帝アウグストゥスから全領土の住民に登録をせよとの勅令が出た」

(ルカ 2 : 1)

古来、権力者は権力を握ると人口調査をしたがります。税をどれだけ集められるか、また兵隊をどれだけ持てるのかを知るのがその第一の目的です。

民数記という書があります。これは文字通り民を数えたからこの名がつけました。2回人口調査があり、第1回は、エジプト脱出後1年1ヶ月後、会見の幕屋設営後1ヶ月目に行なわれ(民数記 1 : 1 ~ 54)、第2回はカナン征服直前にモアブの平野で行なわれました(25 : 19 ~ 26 : 65)。いずれも神の荘重な命令がモーセに下り、人口調査が行なわれています。最初のは徴兵という軍事的目的のためであり、2回目は徴兵と土地分配のためでした。また出エジプト記の 30 : 11 ~ 16 には聖所への税との関連で人口調査が出ていますが、これも神の命令に基づくものです。

その後旧約聖書には1回だけ人口調査が出て来ます。ダビデです。彼が自分の考えで人口調査をしたことは神の怒りを招きました。預言者を通して示された三つの災いの中からダビデの選んだ疫病がイスラエルを打ちました(サムエル記下 24 章)。イスラエルの軍隊は神の軍隊であり、人口調査をするにしても神だけがその権利を持っていたのです。人間が勝手に行なう兵力調査は、神の恵みを数え直すことであり、越権行為だとされました。神から送られた疫病は7万人を殺し、エブス人アラウナの麦打ち場に祭壇を築くことによってようやく終わりました。この場所に後に神殿が建ちました。

当時イスラエルを支配していたローマ帝国は、イスラエルの事情などまったく無視して人口調査の命令を出しました。これを、神を恐れぬ行為だと考えた人もいました。熱心党(ゼロータイ)がそうです。彼らは人口調査を拒否しました。しかしほとんどの人たちはローマには逆らえないと思い、おとなしく人口調査の命令に従いました。その中に聖家族もいました。

本当は神だけがなしうると考えられていた人口調査を外国の権力者が命令しました。ヘブライ人には傲慢な行いだと見えました。人間の傲慢な命令が、しかしながら救い主がミカの預言通りにベツレヘムで生まれるようにしたのです。人口調査の命令が出なかったら、イエスは聖家族の住んでいた町ナザレで誕生していたことでしょう。傲慢なローマ皇帝の人口調査命令によってキリストの誕生場所が左右されたことは、心柔和で謙遜なイエス、ご自分を無にされたイエスに相応しいことでした。ダビデの人口調査が引き起こした疫病をきっかけとして神殿の場所が決まったように、神は人間の傲慢さをも利用して御旨の実現をしようとなさいます。

(新井)

聖家族

聖家族の祝日のお祝いは、ヨゼフとマリアとイエスを真の地上の家族として見る時でもあります。マリアは、幼子イエスを深く愛していましたし、ヨゼフを尊敬していました。ヨゼフにとってイエスは自分の持っているものの中でもっとも大切なものでした。そして、彼はマリアを神殿として大切にしていました。なぜなら彼女は、自分の胎内で、神から人間になった子供を身ごもったからです。イエスは、マリアとヨゼフを人間の生き方を学ぶ聖なる場として、仰ぎ見ていました。彼らは互いを尊敬し、大切にしました。彼らは家族生活の大きな心配や悲しみを理解する家族なのです。

聖家族は、どのようにしたら家族、本物の家族になることができるかを模範として示してくれます。家族は庭であり、そこに植えられたものは何であれ成長するはずです。けれども家族という庭は、時間、心遣いと耕し、笑いと肯定という太陽の光ではあるけれども、困難という雨が降り、心配して緊張するときには、重要な事柄について真剣に話し合うことも必要とします。同時に苦々しい態度、ねたみ、怒り、許すことのできない心の傷をひっくり返してしまうだけの厳しい部分も必要です。

聖書が「聖」という言葉を使うとき、それは健全であり、欠けるところがないということを示しています。聖性は、ユーモアと笑い、共感と理解、そして許し許されるための能力、といった概念を含んでいます。愛することと愛されること、これが聖性というものです。聖家族には葛藤がなかったわけではなく、互いに傷つけてしまったことがまったくなかったということもないでしょう。家族における聖性は、むしろ許すことと和解することを学ぶことから生じるものなのです。家族生活において聖であるとは、私たちの内面にある神の光にすべてを委ねようと懸命に努めることを意味しています。それは、私たちの生活に創造的な秩序をもたらすために、来る日も来る日も苦闘することなのです。

家族は社会における、最初の生きた細胞です。男性と女性が社会的価値を学び、神のご計画に従って生きるためのインスピレーションを見出す最初の場は、家族の中にあるのです。聖書のみ言葉を注意深く聞き、礼拝することによって、より深い神との関係、またお互い同士の関係が、家族の中に生まれます。まず、私たち自身の家族の輪の中で、世界に健全さを取り戻すことを始めましょう。私たちの心と家庭にキリストの平和を保ち、一人一人が神から割り当ていただいた務めを果たしましょう。私たちはすぐに世界を回心させることはできないかもしれませんが、それをすでに始めているはずです。世界は、一つ一つの家庭を寄せ集めたものなのですから。

(Beatrice)



サツテヤ

サツテヤは歌います
世界は耳傾けます
わかります
サツテヤの言葉がわかるのです
サツテヤの歌の言葉は
真理だからです

サツテヤは歌います そして
神は それを聞かれます

サツテヤの歌には 終わりがありません
神の不思議には 終わりがありません

《信心と信仰》

信心と信仰。この言葉はよく混同され、誤解されている言葉です。では、どのように誤解されているのか、どのように考えるのが良いのか考えてみましょう。

・信仰

信仰は、端的にいえば、信仰宣言を信じていることです。信仰宣言を信じるというのは、頭で理解するのではなく、どんなときにでも神様が一番だと思い、神様の価値基準、判断基準で生きていこうとすることです。つまり、信仰者であれば、絶対譲ることのできないものだとも言えます。

たとえば、信仰宣言の中をみると、そこには、神様は、御父と御子と聖霊のお三かたであると言っています。そして、御子はおとめマリアから生まれて十字架につけられた後三日目に復活した。そのあと天に昇り、将来世を裁くために再び来られる(再臨)。また、からだの復活や永遠の命がある。などと言ったことを教会は明文化し、信じているわけです。これらの細かいことは、洗礼を受けるための準備の講座などで学んでいきます。

このように、信仰というのは、私たちキリスト者としての根幹をなすものであるといえます。

・信心

信心には、ロザリオを唱えとか、十字架の道行き、聖体訪問など各時代、各地域によっていろいろあります。これらは、伝統に基づいたもので、多くのものは、教会も薦めているものです。ただ、中には、「信心業をすることが絶対だ」と思っている方もいます。たとえば、ロザリオの祈りを毎日しなければならぬとか。でも、信心というのは、そのようなものではありません。信心というのは、信仰を深めるための一つの手段であり、方法なのです。その人にとって、それが信仰を深めるのに助けとなるならば、すばしいし、もし自分にあわない信心であるならば、しなくても良いものです。たとえば、毎日ロザリオの祈りをしなかったとしても、それは罪にはなりませんし、救われないということにもなりません。信心というのは、まさにそのようなことなのです。

ここで、もう一度整理すると、信仰は譲ることのできない絶対的なもの、信心はその信仰にはいるため、または信仰を深めるための一つの道具であり方法だということです。人間は、頭だけで神様のことを理解しようと思っても、頭でっかちになるだけで、信仰は深まっていきません。その助けとなるのが信心です。また生活と信仰を橋渡しするのも信心です。この違いをもう一度考え、自分にあった信心業を見つけ、より良い信心を行い、信仰を深めていくことができたならば、すばらしいことです。

まちかど

寒い日のことです。

街の通りを、わたしは歩いていました。歩道には、たくさんの人達がいきました。そんな人込みの中を、看板を掲げた男の人達が何人か立っています。風俗業の宣伝をしている看板でした。通り過ぎようとしたわたしは、次の瞬間、思わず、看板を持って立っている男性の一人を見つめてしまいました。

というのも、その男性が赤ちゃんを抱いていたからです。赤ちゃんは、看板を両手で持っている彼の身体に、くくりつけられるようにして抱かれています。どうして、その男性が、赤ちゃんを抱いて仕事をしているのかは分かりません。彼の子供なのか、誰かの子供を預かっているのかも分かりません。ただ、家に、赤ちゃんを独りぼっちで放っておけないから連れて来たのではないのでしょうか。

その男性は、自分の同僚に、抱っこしている赤ちゃんを嬉しそうに見せていました。彼の表情には、赤ちゃんを可愛いと思っている気持ちが感じられました。横から赤ちゃんを覗き込んでいる同僚も、ニコニコと赤ちゃんを見つめていました。

この赤ちゃんには、あの看板に書いてある文字は読めません。ただ赤ちゃんに分かることと言えば、自分を抱っこしている男性から伝わってくるぬくもりと、横から自分を見つめている彼の同僚の優しさだけだったのではないのでしょうか。

幼子イエスさまがお生まれになった馬小屋を、わたしは、寒い街角に見つけたのかもしれない。

丸山知佳子

いのらの言葉

愛ゆえに無となって

心の貧しい人々は幸いである、天の国はその人たちのものである。

(マタイ5・9)

公的生活に入られたイエスは、回心するよう人々を招き、神の国が近づいたことを告げ、病気の人や身体の不自由な人を癒されました。群集はイエスに従うようになり、ある日イエスは山に上られ、ついて来た人々に向けて、ご自分の生き方を、はっきりとお話になりました。「山上の垂訓」と呼ばれるものです。

イエスの話の新しさは、すでに最初の部分に表れています。「幸いな人」とは、富や権力を持つ人ではなく、貧しい人、謙遜な人、小さな人、心の清い人、泣く人、抑圧されている人だと、イエスは言われます。これは、一般的な考え方を根底から覆すものです。特に、消費主義や快樂主義がはびこり、名声を求める人が多い現代社会にあっては、そう言えるでしょう。

イエスがもたらされたこの「よき知らせ」は、最も小さな人々に喜びと希望を与えます。そして、試練や苦しみにある人のそばにおられる神の愛を、信頼できるようにしてくれます。この喜びと救いの知らせは、八つの「幸い」の中で、すでに最初の部分にすべて要約されています。天の国は心の貧しい人のものであることが、保証されているからです。

心の貧しい人々は幸いである。

では「心が貧しい」とは、どういう意味でしょう。所有する富や物、人間や自分自身からも執着を断っている、ということです。ひとことで言えば、私たちが神に向かうのを邪魔するすべてのものを、心の中で後にすることです。これは神のみ旨を生きながら、また、隣人と一つになって、ふさわしい形で相手を楽しみながら、実現できることでしょう。そして、神がお望みになるなら、父、母、畑、祖国も後にする覚悟が必要です。

「心が貧しい」とは、富に信頼するのではなく、神の愛とそのみ摂理に信頼を置くことです。というのも私たちは、健康面での不安、親戚への気遣い、仕事上の気がかり、取るべき態度がわからぬ不安、将来に対する恐れなどで、心が「豊かにあふれている」場合が、よくあるからです。これらす

べてのことは、私たちの魂を固くし、自分の中に閉じこもらせて、神や兄弟に対して魂が開かれないうようにしてしまいます。しかし「心の貧しい人」は、このような時こそ、神の愛を信じ、あらゆる心配事を神にゆだね、父である神の愛を経験します。

また、私たちが他の人を愛そうという姿勢で生きる時、「心が貧しく」いられます。何かを必要としている人たちに、私たちのもっているほほ笑みや時間、富や才能などを分かち合うことができるでしょう。愛ゆえにすべてを与える時、人は貧しく、空っぽで、無になり、自由になるので、清い心でいられます。

この貧しさは、愛から生まれるものですが、一方で、愛を生み出す源にもなります。私たちは、空っぽになり、自由になっている時、神のみ旨をすべて心から受け入れることができ、近くにいる兄弟姉妹を迎え入れることができるからです。

こうした心の清さ、心の貧しさを生きる人に、イエスは天の国を与えることを約束されます。ですから、彼らは「幸いな者」です。

天の国はその人たちのものである。

天の国は、富によって買えるものではなく、権力によって手に入れるものでもありません。天の国は、賜物としていただくものです。だからこそイエスは、私たちに、子供のようにでありなさい、貧しい者でありなさい、と言われます。貧しい人も、子供のように、すべてを他の人から受け取らねばならないからです。

私たちがこのように愛ゆえに無になっている時、聖霊は私たちのもとに来てくださいます。そして、神との豊かな交わりを阻むものが、私たちの中に何も無いのをご覧になって、魂を満たして下さるでしょう。

「心の貧しい人」は、何も自分のためにとっておかないからこそ、すべてを持っていると言えます。自分自身には貧しく、神によって豊かにされているからです。ここでも「与えなさい、そうすれば与えられる」(*1)という福音のみ言葉が実現します。私たちは、自分の持っているものを与える時、「神の国」をいただくからです。

アルゼンチンのある母親は、このことを経験し、次のように語っています。「姑は、息子である私の夫に大変愛情をかけており、嫉妬するまでになっていました。こうした姑の態度のために、私たちの関係はいつも難しく、私は姑にすっかり心を閉ざしていました。一年前、彼女はガンの宣告を受け、治療と介護の必要な状態になりましたが、彼女の一人娘にはそれができないことがわかりました。その頃私は、福音のみ言葉を生きるよう努めており、自分の心が変えられていくのを感じていました。愛することを習い始めたからです。私はいろいろな不安にうちかかって、姑を家に「迎え入れることにしました。彼女を新しい目で見、愛し始め、彼女の中におられるイエスの世話をし、介護しようと思いました。

姑は私の愛に関心ではなく、大変驚いたことに、私がする一つ一つのことに對して、愛で答えるようになりました。神の恵みによって、愛がお互いのものになるという奇跡が起ったのです！

犠牲を伴う数ヶ月でしたが、重荷に感じることはありませんでした。姑が安らかに天に旅立った時には、皆の中には平和がありました。

その数日後、私は、赤ちゃんを授かったことに気がつきました。九年来待ち望んでいたことでした。この子は、神の愛の生きたしるしです。神は、私たちを愛で満たしてくださいました。」

キャラ・ルービック

*1 ルカ6・38

(お問い合わせ)

*フオコラーレセンター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL.03-5370-6424 FAX.03-5370-3055

E-mail focolare@sa.uno.ne.jp

神がとらわれびとを

シオンにもどされた時

蛭田幼一

夜、ひとり静かに思いを回らせていると、またどうしたわけだろう、唇が自然と歌を奏でる。心にじんわり、あたたかな喜びがあふれて。ちよつと哀愁を帯びた、軽快な青春の歌。僕は詩編を探す。それはこんなだ。「神がとらわれびとをシオンにもどされた時、わたしたちは夢を見ている思いがした。わたしたちの顔はほほえみ、口には喜びの歌が浮かんだ。」ちよつとどここんなふうだ、いまの僕は。



諸所の企画についてのご紹介

ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247
Fax(03)3594-2254

* 祈りの集い・いのちの泉へ

11/29(土) インマヌエル・私達と共におられる神死者の月にあたって

12/13(土) 十字架の聖ヨハネと現代

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父と共に

講話：伊従信子・片山はるひ(ノートルダム・ド・ヴィ会員)

プログラム：第一部 午後2時から 講話、祈り、お茶&分かち合い

ミサ(翌・日曜日の典礼)

第二部 午後6時30分から 夕食、祈りの夕べ(8時半頃終了)

参加費：一部のみ200円・二部までは500円

問い合わせ・申し込み

Te l (0 3) 3 5 9 4 - 2 2 4 7 (電話は夕方6時～夜9時)

F a x (0 3) 3 5 9 4 - 2 2 5 4 (F a x 送信は何時でも結構です) 又は郵便で

風 の 家

指 導：井上 洋治 師(東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『^{フネマ}風』編集者

* 新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Te l ・ F A X 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

生命山カトリック別院

〒865-0133 熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

祈りの集い

12月11日歌をもって祈る

* 又、個人、グループで、黙想会・研修会ができます。(宿泊10名迄可)

ご相談ください。お申し込み。TEL0968-85-3100 FAX0968-85-3186

ズランハウス

責任者・ 井口 貴志

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細については電話で問い合わせして下さい。

〒192-0041 八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222

三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL. 042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」 指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

2003, 2月22日（土）5:30pm～23（日）4:00pm 了
6月28日（土）5:30pm～29（日）4:00pm 了
10月25日（土）" 26（日）" 了
2004, 2月21日（土）" 22（日）"

祈りの集い：神が下さる私の道 指導：星野正道師（カルメル会）

対象：男・女青年信徒

2003, 2月11日（火）10:00am～5:00pm 了
5月18日（日）10:00am～5:00pm 了
10月19日（日）10:00am～5:00pm 了
2004, 2月8日（日）" "

黙想会

指導：星野正道師（カルメル会） *対象、一般信徒

2003, 5月19日（月）10:00am～4:00pm 了
10月20日（月）10:00am～4:00pm 了

年の黙想会

指導：星野正道師（カルメル会） *対象、修道女

2003, 7月23日（水）5:30pm～7月31日 朝食後解散 了

指導：雨宮師（東京教区司祭）対象：修道女

2003: 12月26日（金）5:30pm～2004, 1月4日 朝食後解散

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い *対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日（2:00Pm.～3:30Pm.）

第2グループ 毎月第1木曜日（2:00Pm.～3:30Pm.）

両グループ*司祭のために聖体礼拝を捧げます（1:30Pm～200Pm）

聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax.0559-92-2120

祈りの集い（問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで！）

午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL.03-3337-3291

マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

申し込み

TEL.03-3351-0297 • FAX.03-3353-8089

e-mail midorif@jpc.apc-org

1. 祈りの集い・とき：12/13（土）18:00～20:00

テーマ：「主を待ち望む」

対象：どなたでも

2. 「来て・見なさい」プログラム

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

とき：12月21日（日）13:30～16:30 （ミサあり）

テーマ：「闇の中に光を見た」

指導：下川 雅嗣 師（イエズス会）

対象：20代、30代の独身女性・（参加費：500円）聖書ご持参下さい

『心のいほり・内観瞑想センター』代表 藤原直達神父（大阪教区司祭）

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

*TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

*活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

*希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

11/30（日）4時～12/6（土）4時まで兵庫・宝塚売布

12/21（日）2時～13/31（水）2時まで横浜・戸塚（変更）

*2004. 1/13（火）2時～1/18（日）2時まで兵庫・宝塚売布

1/25（日）2時～1/31（土）2時まで横浜・戸塚

2/8（日）4時～2/14（土）2時まで京都・竜安寺

2/22（日）2時～2/28（土）2時まで沖縄・与那原

3/7（日）2時～3/13（土）2時まで横浜・戸塚

3/22（月）2時～3/28（日）2時まで兵庫・宝塚売布

4/18（日）2時～4/24（土）2時まで横浜・戸塚

5/9（日）4時～5/15（土）2時まで京都・竜安寺

5/24（月）2時～5/29（土）2時まで盛岡・白百合

6/2（水）2時～6/8（火）2時まで横浜・戸塚

リーゼンフーバー講座・集い案内

2003～2004年

- キリスト教入門講座** 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座** 毎月第1・第3火曜日 18時40分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会** 木曜日 12時40分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。
- 坐禅会** ●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋 3回坐り、間に講話があります。どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心** ●4月28日(月)20時30分～5月5日(月)14時
6月13日(金)20時30分～15日(日)14時 } 秋川神冥窟
8月9日(土)20時30分～16日(土)14時 } 1泊2400円程度
10月31日(金)20時30分～11月4日(火)14時 }
2004年2月21日(土)8時30分～22日(日)16時 } 上石神井5400円
●5月24日(土)13時～25日(日)16時 }
8月1日(金)17時30分～7日(木)13時 } 宝塚市
- ミサ** 水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(8月を除く)
- 黙想** ●「会社婦りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂 どなたでも。
但し、8月には26日のみ(上智大学内クルトゥルハイム聖堂)。12月24日休み。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(8月を除く)
- 祈りの集い** 下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月12日、5月10日、6月7日、7月5日、8月23日、9月20日、10月11日、
11月15日、12月6日、2004年1月10日、2月14日、3月6日
- 黙想会** 6月21日(土)10時～22日(日)15時、
9月13日(土)10時～15日(月)15時、11月22日(土)10時～24日(月)15時、
2004年3月13日(土)10時～14日(日)15時
1泊4400円程度
- アガペ会** 説明会と集い 下記の日 13時30分～ 20代～40代の信者
4月13日(日)、6月8日(日)：上智大学カトリックセンター
10月4日(土)、2004年1月24日(土)：S.J.ハウス第5会議室
- クリスマス会
ミサ** 12月20日(土)16時30分～ 上智会館5階第6会議室 要申し込み
12月23日(火)14時～ 上智大学内クルトゥルハイム聖堂
- 問い合わせ・
連絡先** クラウス・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

～祈りの集いのご案内～

ともに聖書を読みながら、「人生の目的」「生きること」「愛すること」について考えませんか。

祈りの集い

日 時：12月14(日)・1月11日(日)
2月8日(日)・3月14日(日)

2:00～4:00

対 象：20代30代の未婚女性
キリスト教に興味のある方
聖書を読んでみたい方
祈りを深めたい方

参加費：無料

担 当：ノートルダムのシスターズ

1日黙想会

講 話：酒井 陽介師(サレジオ会)

日 時：2004年1月18日(日)
10:00～16:00

参加費：1000円

個人指導による召命黙想会

日 時：11月21日(金)20:00～
～23日(日)16:00

対 象：修道召命を考えている20代
30代の未婚女性信徒

参加費：3000円(宿泊費・食費を含む)

担 当：ノートルダムのシスターズ

場 所：コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院

申込み・問合わせ：

〒182-0034 東京都調布市下石原3-55-1

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院(係：Sr.山本・Sr.渡辺)

TEL：0424-82-2012 FAX：0424-82-0760

E-mail：mariaprovince@tokyo.email.ne.jp

URL：www.cnd-m.com



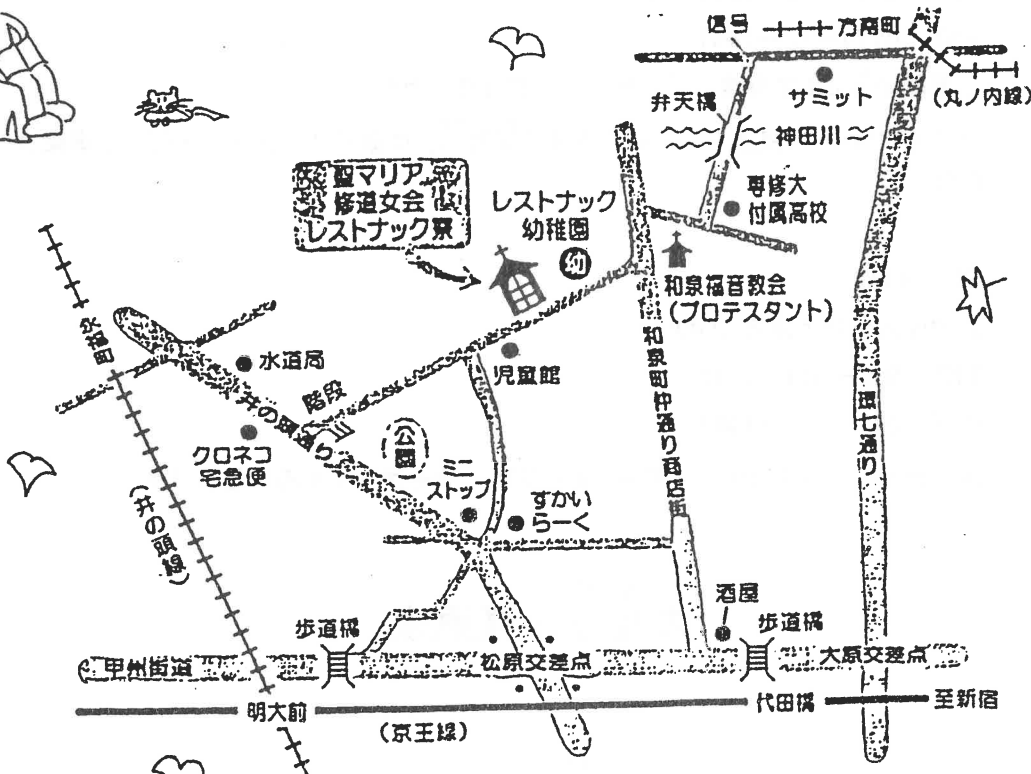
ひひひ クリスマス前の一泊静修会 ひひひ

日ごとに、秋が深まって参りましたが、皆さまは、いかがお過ごしでしょうか。12月の初め待降節の一日、静かに祈る若者のための静修会を、下記のように計画致しました。クリスマスに向けて心のよい準備を共にすることができたらと思っております。お友だちを誘って、どうぞご参加ください。

- テーマ 「クリスマスに向けて」
- 日時 12月7日(日) 10:00am~4:30pm
- 対象 独身女性信徒、又は、求道者 (18~35才)
- 指導 ジャン・クロード神父(イエズス会)
- 場所 聖マリア修道女会 (和泉修道院)
〒168-0063 杉並区和泉2-41-23 Tel.03-3321-1550
- 会費 500円
- 持ち物 聖書、筆記用具、お弁当
- 申込み 12/4(木)迄に ハガキ、又は電話で、上記の住所
聖マリア修道女会「一日静修会係り」宛てお申し込みください。

聖マリア修道女会(和泉修道院)までの交通

- *新宿駅より、京王線・各停で、代田橋駅下車、徒歩13分
特急、急行で、明大前駅下車、徒歩15分
- *渋谷駅より、井の頭線・急行、各停で、明大前駅下車、徒歩15分
永福町駅下車、徒歩12分



上野毛。宇治。大分

カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

聖テレジア修道院（黙想）はカルメルの靈性を体験し、深めたい方のためのものです。黙想会、練成会などにご利用ください。個人でも、グループでもご利用いただけます。お問い合わせ、お申し込みは、下記へお願いいたします。

158-0093

東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

東急大井町線 「上野毛」下車徒歩7分

611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

京都駅から JR 奈良線 「六地蔵」下車徒歩15分

バス停「町並」（京阪バス）から循環「御蔵山」に乗り「西住宅バス停」下車徒歩5分

870-1152

大分県大分市上宗方 1800-3

TEL 097-541-4012

FAX 097-541-4404

大分駅からバスで18分「あけがわらばし明礪橋」下車、橋を渡りすぐ右折徒歩8分

男子跣足
カルメル修道会

お 願 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は 九里 彰神父宛てにおねがいします。

-
- ・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 佐々木茂子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

☎045-575-5722

あとがき

2003年も早、最後の月を迎え、クリスマスの豪華なデコレーションが商店街を飾りつつあります。しかし、そんな天下泰平の日本にもイスラム過激派の自爆テロやロケット砲攻撃のニュースが相次いで飛び込んできます。まさに「目には目を、歯に歯を」の論理がまかり通っています。エルサレムを見て、その都のために泣かれたイエスさまの声が、聞こえてきます。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない」（ルカ 19：42）。「霊性センター・ニュース」が人々の間に「主の平和」を築いていく一助となっていきますように。

霊性センター・ニュース

九里（くのり） 彰

